

## 全国コットンサミット

11月18日、兵庫県加古川市で今年度の「全国コットンサミット」が催されました。これは、コットン栽培からものづくりに至る過程にかかわりを持っている全国各地の関係者が集まり情報交換を行うと共に、広く一般の皆様へ国産コットンの良さを知って頂くという事業です。このサミットの席上、「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」では、昨年度に引き続き日本オーガニックコットン協会から「オーガニックコットンアワード大賞」の表彰をいただきました。これは、私たちの取り組みを高く評価していただいたものです。皆様のご支援の賜物ということで、心より御礼申し上げます。

また、2018年の「全国コットンサミット」の開催は福島いわきでということで、大会旗の引継ぎも行ってきました。今年10月7日にはいわき駅前の産業創造館を会場に開催が企画され、その実行委員会の設立も間近に迫っています。ぜひご期待ください。

## オーガニックコットン栽培農家さんをご紹介します。 第12回 吉田 充さん (56歳)

吉田充さんは本会のコットン栽培地20ヵ所の内、いわき市泉町滝尻中ノ坪地内の畑2反5畝を管理して下さっています。市内の企業に勤務する会社員で、農業に携わった経験はありませんでした。

コットンとの出会いは、震災後本会が開設した小名浜地区災害ボランティアセンターにボランティアとして参加したことでした。ただ当初はピープルスタッフのアシスタント的立場のつもりだったと言います。栽培がスタートしてから、全ての畑の状況を見学し土壌の質が重要であること。その中でも水捌けが良いかどうか成否のカギを握ることを知りました。吉田さんが住む泉町滝尻地区は多くが砂地で大雨が降ってもすぐに水が曳き、乾期が続いても地下数メートルに岩盤があるため適当に水を保てる地域であることに注目していました。

一年後、中ノ坪の畑の管理栽培を全面的に引受けて下さいました。種は直播で行いましたが、出来るだけ雨になりそうな日を狙って実施しましたが、4割は蒔きなおしが必要だったとのこと。完全に発芽し本葉が出揃うまで何度も取り組むため会社が休みとなる土日は全て畑の作業に充ててきたそうです。

人一倍研究熱心な吉田さんは、黒マルチ全面使用の他、畝幅や種まきの間隔、支柱立て等にも独特の工夫を凝らしました。風通しを良くするため根元から20センチ部分の枝払いをやった事は正解だったと言います。その結果反当たり55キロ。本会ダントツの収穫量です。しかも3年間このレベルを維持していますので驚きです。

全国からボランティアがどんどん作業に入って下さる9月末から12月までの収穫時期、「ふっくらしていて綺麗な綿の収穫体験ができて楽しいです」と喜ぶボランティアの皆さんの様子を笑顔で見守っている吉田さん。「立派な栽培をして下さり有り難うございます」の感謝の声が寄せられています。



## 全国からコットンが届いています！

全国からコットンが届いています！

29年度分のコットンの収穫を終えたこの時期、毎年全国から綿が送られてきます。1月末までに50件、約100キロの綿が届きました。本当に有り難うございました。ペイプ製作等に大切にに使わせていただきます。

ところで、昨年パナホーム労働組合様からコットンの種の注文を頂きました。余りの多さに驚きましたが、有料で購入しますとの嬉しい注文でした。スタッフ一同2週間掛けて注文の5,200袋(1袋約80粒入り)の作成に取り組み、種まきに間に合うようお届けする事ができました。

そんなことを私たちが忘れかけていた今年の年明けに、24キロの綿が送られてきました。今後も届きますとの事でしたので、経緯等について伺いましたところ、次のような(一部略)感動的にお便りと写真が届きましたので一部をご紹介します。

2016年12月にパナホーム労働組合は結成20周年を迎え「感謝」をキーワードに様々な周年記念行事を企画しました。その一環で「社会への感謝」と位置付け、新たなボランティア活動を計画することになりました。

2016年に実施した組合員へのアンケートで「被災地への継続した復興支援となるボランティアに参加したい」という声が多かったことから、震災被害だけでなく、風評被害においてもマスコミで大きく報じられていた福島のために、何か出来ないかと考え「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」に参画することになりました。

この取組に賛同したパナホーム(株)茨城支社では住宅展示場や支社事務所でコットンを育て「お客さま感謝祭」で社員が育てたコットンを収穫して頂くなどの催しを行いました。当社の(CSRとしての)取組に感心されたお客さまもおられたようです。

又熊本地震被災地の仲間も取組に賛同「福島の復興をお祈りします(社員一同)」とのメッセージを届けて下さったことは特に感慨深いものがありました。

被災地に向けて、自分たちに出来ることは何か、考えるきっかけを作ることが出来たのは大きな成果だったと感じています。

中略



## 古着回収に若い方が登場!!

本会ではいわき市を中心に県内25ヵ所に古着回収用のリサイクルボックスを設置し、ほぼ毎日回収しています。3台の車両で取り組んでいますが回収作業は全て男性スタッフで行っています。

昨年末、15年間取り組んでくれた室田康明さんが体調を崩され退職。さらに5年間トラックを運転して福島県内など広い地域を回収してくれていた信夫幸彦さんも退職されました。共に70代以上でしたので体力的に大変な負担であったと思います。永い間の協力本当に有り難うございました。この場をお借りして二人に御礼申し上げたいと思います。



一方、古着の回収は一刻たりとも猶予がない現状です。12月半ば豊田裕規君(38歳)が取り組んでくれることになり、スタッフ一同胸をなで下ろした次第です。平均年齢が高いピープルですがここで一気に若返った感じです。「車の運転は好きだし、力仕事の回収作業はそれ程苦にならないんですよ」と明るく語る豊田君。スケジュール表を片手に次々仕事をこなしてゆく姿は頼もしい限りです。

ところで、豊田君にお願いしている業務がもう一つ。回収した古着のうち地域内で活用できないものを、岩手県一関市にある反毛工場へ運ぶためにフレコンバッグに詰め込む作業があります。フォークリフトも運転できる豊田君ではありますが、一人でこの業務もこなすのは至難の業です。小名浜地域にお住いのフォークリフト運転のできる方、お力添えいただけませんか?ご協力いただける方は事務局までご連絡をお願いいたします。

## 29年度復興庁「心の復興事業」のイベント紹介

昨年10月発行の会報で「心の復興事業」のイベントについて初回分を紹介しましたが、その後も回を重ねることができましたので、ご報告させていただきます。

この事業は、避難者の方々が「みんなの畑菜園」で栽培している野菜を食材として利用しながら、外部から支援にきてくださる方々のパフォーマンスも加えた楽しい交流会を催すというものです。

第2回目は11月7日。つくばみらい市から「包丁研ぎボランティア」の皆様一行15名を迎え80本の包丁を研いで頂きました。この日は「みんなの畑菜園」で育てられた野菜も使用して、檜葉町で有名な「マミーすいとん」を作りました。

第3回目は12月5日。千葉県から夏目銀之助さんを迎え、腹話術や手品、サクスの演奏などお腹の底から笑った楽しい一時を過ごしました。この日の食の提供は大熊町仮設住宅の市川自治会長さんの協力を受け、会場でついたばかりのお餅にじゅうねんをからめた美味しい「じゅうねん餅」をお腹一杯いただきました。

第4回目は1月21日。さいたま市からチーム農援隊11名の皆様が来所。本格的お蕎麦の提供がありました。

これら4回のイベントの目的は下神白団地と永崎団地の両住民の皆さんの交流ですが、回を重ねるたびに交流の輪が確実に広がってきたと実感できています。また、毎回午後は3.11に灯すコットンランプシェード作りに取り組んで頂きました。ご協力有り難うございました。



私たちの活動を会員として支えて下さい。  
会費納入をよろしくお願い致します。

会費：活動会費(実際に活動に参加される方と、会報の講読という形で支援して下さる方) 2,000円/年

賛助会員(資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員) 10,000円/年

郵便振替(02110-0-24908)でお送りください。